ピアレビュー委員会（第 6 部会）

2019 年度（対象年度：2018 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	研究組織（F 群）

基準 11	大学独自の評価項目

総評

1110(1)　設置目的に沿った研究推進を計画的に進めているか

年度重点目標が設定されている研究所は少なく、事業内容の決定となる根拠資料の不足が見られたが、研究所の規程を意識した取り組みを行う姿勢は見られた。他の組織との連携事業など、研究所の設置目的に沿って活動の領域を広げている研究所もあった。

1120(2)　持続的に業務内容の点検を行っているか（委員会活動の検証）

運営委員会もしくはそれに代わる会議を開催している研究所が半数、運営委員会が開催されていない、あるいは開催されていても議事録が作成されていないなど、管理運営に問題がある研究所が半数であった。委員会が開催されている研究所は、審議を経て適切に事業が行われ、議事録の作成もされていた。一部の研究所においては、前年度の課題に対する改善の取り組みも見られた。

長所・特色

1110(1)　国際人間学研究所主催の講演会の内容は総合大学にふさわしい貢献活動である。また、学内の他組織（天文台、大学院国際人間学研究科等）との連携は評価できる。現代教育学研究所では、活動成果の根拠として卒業生へのアンケート調査を実施している。

1120(2)　現代教育学研究所においては、前年度からの改善として、委員会議事録の作成・保管方法の確立、わんぱく隊の見直し、市 NPO との連携強化といった課題に対する具体的な対応が取られており、自己点検・評価の成果と言える。

留意点

＊各項に留意点レベルを記入　【A】・・・緊急の改善を要する事項
【B】・・・検討を要する事項

ピアレビュー委員会（第 6 部会）

2019 年度（対象年度：2018 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	事務組織（F 群）

基準 11	大学独自の評価項目

総評

1120　ピアレビューの結果、F 群の事務組織においては概ね年度の重点目標を設定し、持続的な改善・向上の取り組みを行っていることが確認できた。また、昨年度の課題改善に対しての取り組みも行われており、自己点検・評価の PDCA サイクルが循環していることも確認できた。

中でも、年度重点目標・項目をそれぞれの課員に業務分担・年度スケジュールに落としこむことで共有を図っている点や業務の進行について定期的な面談等で点検・評価を行っている点は、持続的な改善・向上に効果を上げる施策と評価できる。
また、委員会活動の検証においては、複数の委員会で複数回にわたり、方針・目標・活動内容の検証も実行されており、会議の資料・議事録のホームページ上での公開などと共に、他の組織でも参考となる事例といえる。

一方で、業務報告に留まっている組織や議事録の添付が無い組織も見受けられるなど、持続的な改善・向上への取り組みや委員会活動の検証が必ずしも十分ではない組織もあり、組織によって差が出る結果となった。
また、昨年度に掲げた改善計画に対する取り組みが薄い組織もあり、模範的な組織の取り組みを学内で共有することで、全組織が一体となった自己点検・評価となることが望まれる。

長所・特色

1120　年度重点目標・項目をそれぞれの課員に業務分担・年度スケジュールに落としこむことで共有を図っている。
1120　複数の委員会で複数回、方針・目標、活動内容の検証を行い、次の目標を立てている。
1120　会議の資料・議事録のホームページ上での公開は、特色のある取り組みといえる。

留意点

＊各項に留意点レベルを記入　　【A】・・・緊急の改善を要する事項
【B】・・・検討を要する事項

1120　昨年度に掲げられた改善計画に対する取り組みの薄い組織があったので、次年度に向けて継続的な取り組みを期待したい。【B】